

平成25年度 八洲学園大学国際高等学校事業計画書

1. 施設の概要

(1) 所在地

学校名	所有区分	郵便番号	学校(会場)所在地	電話番号	FAX番号
八洲学園大学国際高等学校	法人所有	905-0207	沖縄県国頭郡本部町備瀬1249	0980-51-7711	0980-48-4115

2. 学生(生徒)の概要

(1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧(平成25年3月1日現在)

設置課程	設置学科	入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③技能連携 在籍者数 (人)	④聴講生数 (人)	収容率 (%) $(②+③) \div ① \times 100$
通信制課程 (広域)	普通科	※※※※※※	5000	835	0	10	16.7

(2) 平成25年度入学者数・卒業者数・転学者数・退学者数・除籍者数予測一覧

	入学者数 (途中転編含む)	卒業者数	転学者数	退学者数	除籍者数	増加予測人数
正科生	330	250	10	5	35	30
聴講生	10					

3. 教職員関係

(1) 平成25年度管理職の概要

職名	氏名	備考
校長	岩井 貴生	留任
教頭	中村 成希	留任

(2) 平成25年度教職員の概要（平成25年3月1日現在）

		合計（人）	沖縄	横浜
教員	本務	男性（5）	9	1
		女性（5）		
教員	非常勤	男性（2）	6	0
		女性（5）		
職員	本務	男性（2）	2	0
		女性（0）		
職員	兼務	男性	0	0
		女性		

平均年齢は教員39.1才、職員38.5才である（平成25年3月1日現在）

4. 事業の概要

(1) 事業の概要

① 主な事業の計画

年度	事項	概要	進捗状況
25～27	eラーニングコンテンツの刷新	平成25年度1年次から移行の新学習指導要領に対応したeラーニングコンテンツの開発・制作とスマートフォンなどの新メディア利用を進め、学籍管理料の増収を目指す。	旧学習指導要領科目も残しつつ、スマートフォンやタブレット端末での利用できる新規コンテンツを導入する。
23～27	レポート内容の改善	平成24年度に引き続き、平成25年度から移行の新学習指導要領準拠の教科書に即して全面改訂または新規開発する。特に理数系教科書の難易度増をレポート側で平易化の工夫をして、生徒のいっそうの学習理解をはかる。	平成24年度は新学習指導要領の1年次の科目と先行実施の理数の科目より順次改訂・新規制作を完了した。平成25年度は教科書の替わる2年次科目と新科目について改訂・新規制作を進める。
24～27	携帯電話を活用したレポート補助教材の開発	レポート提出率、合格率の向上、FAQ問合わせ対応の効率化を目的とし、すべてのレポート教材にQRコードを掲示し、情報端末か話らアクセスできるWEB上の補助教材を整備する。	平成24年度は、今年度開講の科目も含めた全科目のレポートへのQRコード掲載作業と携帯電話からの補助教材利用化を実施した。引き続き平成25年度以降開講の新学習指導要領科目のQRコード掲載作業と補助教材利用化を進めていく。また、平成25年度は既存コンテンツも含めスマートフォン対応化をはかる。
23～	新学習指導要領及び移行措置に伴う指導計画方針の策定	平成24年度からの先行実施及び平成25年度から導入される新学習指導要領に沿った各教科ごとの指導計画を作成する。一般生の半数以上が転編入生であるので、新カリ・現行カリを平行で進める期間の短縮と効率的な履修指導・スクーリング計画により、スクーリングコストや生徒さんの負担を減少させることを主眼とする。	平成23年度に先行実施科目への転編入生向け指導計画方針は策定した。全面移行となる平成25年度に備えて、平成24年度中に段階的に必要な準備を進めた。平成25年度は、平成27年度までに導入される新学習指導要領全科目について指導計画方針を策定する。

22～	学校要覧の作成・配布	学校要覧を毎年作成・配布することによって本学への信頼度を上げる。特に指定校推薦の開拓、サポート校開拓等のツールとして、生徒募集に活用する。	平成22年度から企画を進め、平成23年度に初版の発行を行なった。平成25年度は、改訂版を発行し、生徒募集ツールとしての活用を進める。
22～	自己点検評価の作成	学務・校務の業務全般を自己点検し、新しい事業へのチャレンジと具体的な目標の設定を行なうことで、組織の活性を維持・発展させるとともに、外部へ公表することで保護者や入学検討者への学校の信頼度や魅力を向上させる。	平成25年度自己点検結果を学校HP上で公開する。また、自己点検評価概要を学校情報誌「ゆんたく」紙上で案内する。
22～	高大連携の具体化	高校と大学の連携・接続を深めることで、内部進学者をいっそう増やすと共に、大学のある学園の高校として入学見当者からの魅力向上をはかる。具体的には大学の講義の高校生受講、大学教官の講演などの交流活動と、大学パンフレットの高校での配布や校内情報誌「ゆんたく」での大学記事掲載、不登校児への高校教育活動を大学講義のなかで紹介するなどの事業を実施する。	平成24年度は高校訪問活動での大学パンフの積極的配布、高校の地域支援活動であるひきこもり支援活動への大学教官の派遣（年4回）や大学の教員免許更新講習試験会場の設置を行なった。平成25年は、平成24年度までの活動に加えて、大学講義の中での高校での「前籍校不登校生徒への教育活動の紹介」など双方向の交流を深めてゆく。

23～	進路指導の強化と進路捕捉率の向上	生徒の集中スクーリング参加、職員室来室の機会を有効に生かして、キャリア教育・進路指導を行うとともに、外部の合同企業説明会・就活イベントに学校として積極参加し、就職機会の拡大をはかる。	平成24年度は、各短期集中スクーリングの特別活動で進路指導を実施した。また、企業説明会へ参加し就職内定者の成果を得た。平成25年度においても積極的参加をはかる。また、職員室生徒受付窓口に進路情報コーナーを設置するとともに進路決定者の掲示スペースを設け、進路への意欲を引き立てる事が出来るようにした。
22～	高認試験希望者への対応強化	聴講生（高認試験希望者）向けのパンフレット作成・配布、学校WEBサイトでの高認試験情報ページの追加、高認向け資料請求フォームの追加を実施して高認受験希望者への当校の周知をはかり、あわせて聴講生に対応したスクーリング時間割など、学校の魅力向上をはかる。	平成24年度で広報ツールやWEBサイトのページ設置及び認知拡大を図った。平成25年度は、1回の参加で修得しうる科目数を時間割の工夫で拡大し、志願者にとっての魅力を上させる。
22～	地域貢献・地域交流	地域海外の清掃ボランティア活動、地域の恒例行事となった少年サッカー大会を主催し、地域貢献・地域交流を通して学校の知名度と好感度を浸透させる。地元教育委員会及び商工会の賛同・協賛も頂いている。 「一般社団法人ひきこもり支援相談士認定協議会 沖縄支部」に加盟し、地域のひきこもり支援者普及とスキルアップに貢献することで学校の知名度向上と入学見当者の遭遇機会向上をはかる。	学校近隣の清掃や地域行事への参加、そして本学主催の地元チームのサッカー大会は地元から高い評価を頂いている。平成25年度も引き続き地域活動・参加を継続する。 外部講師を招いて「ひきこもり支援」に関する講演会&勉強会を毎月実施する。

22～	WEBプロモーションの展開	募集年齢層が集まるソーシャル系メディア全般への広報展開を行ない、学校の認知度向上・生徒募集増をはかる。	平成23年度にツイッターでの展開を開始し、WEB導線の再構築を行なった。平成24年度はフェイスブックでの広報展開を進め、25年度募集よりLINE@も新規導入する。
22～	技能連携校・サポート校の開拓と支援	技能連携校・小規模塾や高等専修学校などのサポート校開拓とサポート校の募集支援・連携した広報活動などの支援活動を通じて、生徒募集のチャンネル増を維持・拡大させる。	平成25年度は、平成24年度までに各地に開拓したサポート校の支援と、ひきつづき県内外のサポート校新規開拓を行なう。
23～	広報ディスプレイの更新	沖縄県内において、生徒募集効果の高い生徒募集バス車体広告及びテレビCMを更新出稿していっそうの認知度向上・生徒募集増をはかる。	高校進学時期に合わせた平成25年3月からの増出稿と平成25年度当初の更新を行う。
23～	生徒の問題行動の未然防止	本校での生徒指導のあり方を見つめ直し、生徒対応の方法・学校ルールのアナウンスを再考慮して問題行動の未然の防止に努める。担任と生徒指導部だけでなく、全教職員での確認や研修、マニュアル整備を通して、学校力として生徒対応に当たる。	平成24年度は、問題行動を未然に防ぐ生徒向けの学校生活確認試験を導入し効果を上げた。平成25年度は、試験を継続実施し、各スクーリングの状況ごとに、きめ細かく対応することで、問題行動の未然防止の深化をはかる。

② 施設・設備の整備計画

年 度	事 項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期	備 考
22～	校舎宿舎の修繕 (宿舎壁、各棟エアコン修理、セキュリティシステムの改修、宿舎手摺のサビ止め、宿舎ベッドの修繕、シャワー部品改修など)	小規模	500,000	管理修繕費	未定	

22～	PC、PC 周辺機、印刷機などの設置	中規模	500,000	備品補充費	24年度中に更新完了	
23～	新学習指導要領に対応した e-learning コンテンツの研究開発	中規模	1,000,000	研究費	24年度試行、25年度本導入	
25～	校舎の全面改修工事（宿泊棟、教室棟、食堂棟、職員室棟の4棟に対して、防錆・防水および壁面の塗装更新校舎壁面の塗装工事を実施予定）	大規模	23,000,000	管理修繕費	未定	

③ 授業料変更等

年 度	事 項	概 要
	計画なし	

④ 卒業者数、就業者数の見込みについて

平成25年度は、24年度ベースで見積もった結果、約250名の卒業者数を見込んでいる。

各月ごとに進路状況を把握し、確認した結果、今年度の学校把握新規就業者数は、約15名であった。

⑤ 生徒の就職、進学状況について

進学では、医学・看護・福祉系への志願者増や芸術系大学志願など、高等教育への進学意欲がいよいよ高まっている。

昨年度の沖縄県内指定校推薦制度のある進学先すべての開拓に引き続き、県外の進路先開拓も実施した。

⑥ 教職員採用・退職計画

年 度	事 項	概 要
24	退職者（教職員1名、パート1名）	

25	教職員採用（常勤講師1名）	任期制教員（有期9名）、常勤講師（有期1名）、非常勤講師（有期6名） 常勤職員（有期2名）、パート（有期5名）
----	---------------	--

5. 財務の概要

平成22年度より授業料収入が増加基調となり、平成24年度は前年度比約5%増であった。平成25年度についても、昨年度並みの3～5%の収入増を最低目標と掲げ、安定した財務状況を確保したい。

支出については、年度間で4度の台風襲来による施設や物品の被害を被ったが、保険により修繕費用の大半をカバーできた。その一方で平成24年度から先行実施された新学習指導要領による科目増・授業開講増により、教材費、教職員人件費が上昇した。平成26年度より隣接市に株式会社立高等学校が開校することとなったので、収入増の一部を沖縄県内広報費に充て、沖縄県内の募集基盤を更に固めることとした。

なお、今年で築13年の校舎壁面の塗装剥離、屋根の錆止め塗装の剥離と鉄骨・鉄材の腐食進行が目立ち始めており、安全を確保するためにも平成25年度より校舎修繕工事を進めたい。